

原 著

口語英語研究 (9)

許可の表現に関して

木戸 充*・Stuart J. SANDERSON**

*日本獣医生命科学大学 英語学教室

**Sanderson English School

要 約 本稿は許可に関わる英語口語表現についての考察である。本稿の目的は, “May I ~?” に込められる [許可] [依頼] [提案] という3つの意図とその応答, 話し手の行動についての許可を相手に求めるときに使われる “Can I ~?” と “May I ~?” の相違, 相手の行動についての許可を示すときに使われる “You can ~” と “You may ~” の相違, 相手に手助けを申し出るときに使われる “May I help you?” / “Can I help you?” / “What can I do for you?” / “How may I help you?” / “How can I help you?” の相違などについて検証することである。なお, 木戸・Sanderson (2009 から 2016) と同様, 本稿は日本語を母語とする者と英語を母語とする者の長時間にわたるディスカッションを基にして書かれている。

キーワード: may, can, help

日獣生大研報 66, 21-31, 2017.

1. は じ め に

本稿の目的は許可に関わる英語口語表現のニュアンスや用いられる状況を明らかにすることである。

第2章では “May I ~?” に込められる意図とその応答について論じる。本来 “May I ~?” は「私は～してもいいですか」という [許可] を表すが, 「あなたが～してくださいませんか」という [依頼] や「私が～しましょうか」という [提案] を意図して使われることもある。これらの意図と “May I ~?” への応答として用いられる “Go ahead.” / “Sure.” / “Certainly.” / “Yes, of course.” / “Thank you.” / “Yes, please.” にはどのような関連があるのだろうか。

第3章では “Can I ~?” と “May I ~?” の相違について論じる。“Can I ~?” は “May I ~?” と同じように「私は～してもいいですか」という [許可], 「あなたが～してくださいませんか」という [依頼], 「私が～しましょうか」という [提案] を意図して使われることがある。この点で “Can I ~?” は “May I ~?” の同意表現になるが, ニュアンスや用いられる状況において両者にはどのような違いがあるのだろうか。

第4章では “You can ~” と “You may ~” の相違について論じる。“You can ~” は “You may ~” と同じように you の行動を許可するときに使われることがある。この点で “You can ~” は “You may ~” に似ているが, ニュアンスや用いられる状況において両者にはどのような違い

があるのだろうか。

第5章では相手に手助けを申し出るときに使われる “May I help you?” / “Can I help you?” / “What can I do for you?” / “How may I help you?” / “How can I help you?” について論じる。“May I help you?” / “Can I help you?” は “May I ~?” (私は～してもいいですか) / “Can I ~?” (私は～できますか) という疑問文であり, “What can I do for you?” / “How may I help you?” / “How can I help you?” は “What ~?” (何ですか) / “How ~?” (どうやって) という疑問文である。この尋ね方の相違はそれぞれが用いられる状況とどのように結びついているのだろうか。

2. [許可] [依頼] [提案] を意図する “May I ~?” に関して

本来 “May I ~?” は「私は～してもいいですか」という話し手の行動についての [許可] を表すが, 「あなたが～してくださいませんか」という [依頼] や「私が～しましょうか」という [提案] を意図して使われることもある。この “May I ~?” に込められる3つの意図について [ref.1] にまとめる。

[ref.1] “May I ~?” に込められる3つの意図

- ① [許可] 「私は (私のために) ~してもいいですか」
“May I ~?” は「私が (私のために) ~してもいいですか」という [許可] を意図することがある。この [許

可] を相手が認めた場合には、「話し手が話し手のために」行動することになる。例えば、学生が教師に“*May I ask a question, please?*” (質問してもいいですか) と言って教師がそれを認めた場合には、「学生が学生のために」質問することになる。

- ② [依頼] 「あなたが (私のために) ～してくれませんか」
“*May I ~?*” は「あなたが (私のために) ～してくれませんか」という [依頼] を意図することがある。この [依頼] を相手が受け入れた場合には、「相手が話し手のために」行動することになる。例えば、ファンが有名人に“*May I have your autograph, please?*” (サインをいただけますか) と言って有名人がそれを受け入れた場合には、「有名人がファンのために」サインすることになる¹⁾。

- ③ [提案] 「私が (あなたのために) ～しましょうか」
“*May I ~?*” は「私が (あなたのために) ～しましょうか」という [提案] を意図することがある。この [提案] を相手が受け入れた場合には、「話し手が相手のために」行動することになる。例えば、A という人が友人に“*May I pick you up at the airport?*” (空港まで迎えに行ってもいいですか) と言って友人がそれを受け入れた場合には、「A が友人のために」車で空港に迎えに行くことになる²⁾。

“*May I ~?*” への応答として使われる表現を [ref.2] にまとめる。

[ref.2] “*May I ~?*” への応答

- ① “Go ahead.”

相手の行動を許可するときに使われる応答。例えば、2 人が同時にエレベーターに乗ろうとすると、一方が「お先にどうぞ」という意味で“Go ahead.”とすることがある。また、“*May I sit here?*” (ここに座っていいですか) に対して「どうぞ、座ってください」という意味で“Go ahead.”と応えることがある。“ahead (先へ) go (行ってください)” という命令文であるため、率直な響きがある。

- ② “Sure.”

相手の行動を許可するときや相手からの依頼を受け入れるときに使われる応答。例えば、“*May I open the window?*” (窓を開けてもいいですか) に対して“Sure.” と言えば、“Yes.” (はい) と同じ意味の応答になる。本来は「確かな」という意味の形容詞であるため、間接的で丁寧な響きがある。

- ③ “Certainly.”

②と同じ意味の応答。本来は「確かに」という意味の副詞であるため、②と同じように間接的で丁寧な響きがあるが、②よりもかたい。例えば、客に敬意を示さなくてはならないウエイターなら、客から注文を受けたときには“Sure.” の代わりに“Certainly.”

と応えることが多い。

- ④ “Yes, of course.”

②や③と同じ意味の応答。“of course” (もちろん) という応答であるため、積極的で丁寧な響きがあるが、正式でかたい響きもある。

- ⑤ “Thank you.”

相手から話し手の利益になることが提案されたときに“Thank you.” (ありがとう) と応えることがある。例えば、“*May I help you?*” (お手伝いしましょうか) に対して“Thank you.” (ありがとう) と応えれば、相手への感謝とともに相手の提案を受け入れる気持ちを伝えることになる。

- ⑥ “Yes, please.”

⑤と同じように提案を了承するときに使われる応答。“yes (はい) please (どうぞお願いします)” というニュアンス。

[ref.2] ①から⑥は“*May I ~?*” に込められる意図によって“*May I ~?*” への自然な応答になることもあれば、“*May I ~?*” への自然な応答にならないこともある。以下では会話例を見ながら“*May I ~?*” に込められる意図と応答との関連を具体的に検証する。

[ex.1] A と B は知り合って間もない者同士。A は個人的な質問を B にしようとしている。

A : (1) “Mr Smith³⁾, *may I ask a personal question?*”

「スミスさん、個人的な質問をしてもいいですか」

B : (2) “Sure. What is it?”

「いいですよ。何ですか」

A : (3) “What do you do?”

「どんな仕事をなさっているのですか」

B : (4) “I’m a teacher. I teach English at high school.”

「教師です。高校で国語を教えています」

[ex.1] (1) で A は B に“Mr Smith, *may I ask a personal question?*” と言って個人的な質問をしていいかどうか尋ねている。この“*May I ~?*” は「私は～してもいいですか」という話し手の行動についての [許可] を意図して使われている。

[ex.1] (2) で B は“Sure.” と応えている。これは A の行動についての許可を示す応答であり、この応答を受けて A は [ex.1] (3) で“*What do you do?*” と尋ねている。このように、“*May I ~?*” が [許可] を意図して使われて相手がそれを認めた場合には、「話し手が話し手のために」行動することになる。

[ex.1] (2) で“Go ahead.”/“Sure.”/“Certainly.”/“Yes, of course.” は自然な応答になり、“Thank you.”/“Yes, please.” は自然な応答にならない。これは [ex.1] (1) の“*May I ~?*” に [許可] の意図が込められているため、つまり、

前者が[許可]に対する応答にならないためであり、後者が[許可]に対する応答にならないためであると考えられる。

[ex.2] 客とウェイトレスのレストランでの会話。客がウェイトレスに水を持ってきてくれるように頼んでいる。

客：⁽¹⁾ “Excuse me.”
「すみません」

ウェイトレス：⁽²⁾ “Yes, sir.”
「はい」

客：⁽³⁾ “*May I* have a glass of water, please?”
「水を一杯いただいてもいいですか」

ウェイトレス：⁽⁴⁾ “*Certainly.*”
「かしこまりました」

[ex.2] (3) で客はウェイトレスに “*May I* have a glass of water, please?” と言って、水を持って来るように頼んでいる。ここで客がウェイトレスに “*Would you* give me a glass of water, please?” (水を一杯いただけますか) と言っても伝わる内容は同じである⁴⁾。したがって、この “*May I* ~?” は「あなたが~してくれませんか」という相手の行動への[依頼]を意図して使われていることになる。

[ex.2] (4) でウェイトレスは “*Certainly.*” と応えている。これは客の依頼を受け入れる応答であり、この後ウェイトレスは客のために水を取りに行くことになる。このように、“*May I* ~?” が[依頼]を意図して使われて相手がそれを受け入れた場合には、「相手が話し手のために」行動することになる。

[ex.2] (4) で “*Certainly.*” / “*Sure.*” / “*Yes, of course.*” は自然な応答になり、“*Go ahead.*” / “*Thank you.*” / “*Yes, please.*” は自然な応答にならない。これは[ex.1] (3) の “*May I* ~?” に[依頼]の意図が込められているため、つまり、前者が[依頼]に対する応答にならないためであり、後者が[依頼]に対する応答にならないためであると考えられる。

[ex.3] ホテルの玄関での会話。ポーターが客に声をかけて、客の荷物を運ぶのを手伝おうとしている。

ポーター：⁽¹⁾ “Welcome to the Green Hotel, sir. *May I* give you a hand with your luggage?”
「グリーンホテルへようこそ。お荷物をお手伝いしてもよろしいでしょうか」

客：⁽²⁾ “Oh, *thank you.*”
「ああ、どうもありがとう」

[ex.3] (1) でポーターは客に “*May I* give you a hand with your luggage?” と言って、客のために荷物を運ぶことを申し出ている。ここでポーターが客に “*Shall I* give you a hand with your luggage?” (お荷物をお手伝いしましょうか) と言っても伝わる内容は同じである⁵⁾。したがって、この “*May I* ~?” は「私が~しましょうか」という

話し手の行動の[提案]を意図していることになる。

[ex.3] (2) で客は “Oh, *thank you.*” と応えている。これはポーターの提案を受け入れることを示す応答であり、この後ポーターは客のために荷物を運ぶことになる。このように、“*May I* ~?” が[提案]を意図して使われて相手がそれを受け入れた場合には、「話し手が相手のために」行動することになる。

[ex.3] (2) で “*Thank you.*” / “*Yes, please.*” は自然な応答になり、“*Go ahead.*” / “*Certainly.*” / “*Sure.*” / “*Yes, of course.*” は自然な応答にならない。これは[ex.3] (1) の “*May I* ~?” に[提案]の意図が込められているため、つまり、前者が[提案]に対する応答にならないためであり、後者が[提案]に対する応答にならないためであると考えられる。

“*May I* ~?” に込められる3つの意図と応答との関連を[ref.3]にまとめる。[ref.3]において[許可]「私は(私のために)~してもいいですか」は “*May I* ~?” によって話し手のための話し手の行動についての許可を求める場合、[依頼]「あなたが(私のために)~してくれませんか」は “*May I* ~?” によって話し手のために相手の行動を依頼する場合、[提案]「私が(あなたのために)~しましょうか」は “*May I* ~?” によって相手のために話し手の行動を提案する場合を示している。また、[ref.3]において○はそれぞれの場合において “*May I* ~?” への自然な応答になること、—はそれぞれの場合において “*May I* ~?” への自然な応答にならないことを示している。

[ref.3] “ <i>May I</i> ~?” に込められる3つの意図と応答			
	[許可]「私は(私のために)~してもいいですか」	[依頼]「あなたが(私のために)~してくれませんか」	[提案]「私が(あなたのために)~しましょうか」
① “ <i>Go ahead.</i> ”	○	—	—
② “ <i>Sure.</i> ”	○	○	—
③ “ <i>Certainly.</i> ”	○	○	—
④ “ <i>Yes, of course.</i> ”	○	○	—
⑤ “ <i>Thank you.</i> ”	—	—	○
⑥ “ <i>Yes, please.</i> ”	—	—	○

① “*Go ahead.*” は「どうぞ~してください」という意味で相手の行動を許可するときに使われる応答である。したがって、“*May I* ~?” が[許可]「私が(私のために)~してもいいですか」を意図する場合には自然な応答になり、[依頼]「あなたが(私のために)~してくれませんか」や[提案]「私が(あなたのために)~しましょうか」を意図する場合には自然な応答にならない。

② “*Sure.*” や③ “*Certainly.*” や④ “*Yes, of course.*” は「いいですよ」や「はい、もちろんです」という意味で相手の行動を許可するときや相手からの依頼を受け入れるときに使われる応答である。したがって、“*May I* ~?” が[許可]

「私が（私のために）～してもいいですか」や「依頼」「あなたが（私のために）～してくれませんか」を意図する場合には自然な応答になり、「提案」「私が（あなたのために）～しましょうか」を意図する場合には自然な応答にはならない。

⑤ “Thank you.” や⑥ “Yes, please.” は「ありがとう」や「はい、お願いします」という意味で相手からの提案を受け入れるときに使われる応答である。したがって、“May I～?” が「提案」「私が（あなたのために）～しましょうか」を意図する場合には自然な応答になり、「許可」「私が（私のために）～してもいいですか」や「依頼」「あなたが（私のために）～してくれませんか」を意図する場合には自然な応答にならない。

3. 「許可」「依頼」「提案」を意図する “Can I～?” に関して

[ex.1] (1) や [ex.2] (3) や [ex.3] (1) で “May I～?” の代わりに “Can I～?” を使って “Mr Smith, *can I ask a personal question?*” や “*Can I have a glass of water, please?*” や “*Can I give you a hand with your luggage?*” と言えば、“May I～?” と同じようにそれぞれ「許可」「私は（私のために）～してもいいですか」、 「依頼」「あなたは（私のために）～してくれませんか」、 「提案」「私が（あなたのために）～しましょうか」を意図することになる。この点で Can I～?” は “May I～?” と同意表現になるが、ニュアンスと用いられる状況において両者にはどのような違いがあるのだろうか⁶⁾。

“Can I～?” と “May I～?” の基本的なニュアンスの相違を [ref.4] にまとめる。

[ref.4] “May I～?” と “Can I～?” のニュアンスの相違
① “May I～?”

“I（私は）may（してもいいですか）” というニュアンス。話し手の行動についての許可を相手に求めるときに使われる正式な表現。礼儀正しくかたい響きがある。

② “Can I～?”

本来の意味は “I（私は）can（できますか）” というニュアンス。この意味から転じて現代英語では①と同じように話し手の行動についての許可を求めるときに使われることがある⁷⁾。この意味の “Can I～?” は現代的であるため、“May I～?” よりも軽くてやわらかく、“May I～?” にない親しみがある。

以下では “Can I～?” と “May I～?” が用いられる会話例を見ながら両者が用いられる状況の相違を具体的に検証する。

[ex.4] Steve と George の会話。Steve と George は親しい友人同士。Steve は George からペンを借りようとしている。

Steve : (1) “*Can I borrow this pen, George?*”

「このペンを借りてもいい、ジョージ？」

George : (2) “*Yes, of course.*”

「いいよ、もちろん」

[ex.4] (1) で Steve は George に “*Can I borrow this pen, George?*” と言っている。これに対して George は “*Yes, of course.*” と応えている。このように軽くてやわらかな “Can I～?” を使えば、“May I～?” にない親しみが込められる。

[ex.4] (1) のような状況では “May I～?” を使って “*May I borrow this pen, George?*” のように言うことは “Can I～?” を使う場合よりも少ない。これは親しい関係にある友人や家族に対して正式な “May I～?” を使えば、よそよそしい他人行儀な話し方をしていることになってしまうためである。

[ex.5] A と B の電話での会話。B が SJS という会社に電話をかけ、その電話に A が出たところ。A と Mr White は SJS の社員。B と Mr White は仕事関係での知合い同士。A と B は名前も顔を知らない他人同士。

A : (1) “*SJS. Thank you for calling.*”

「SJS です。お電話ありがとうございます」

B : (2) “*This is Miss Thompson speaking. May I speak to Mr White, please?*”

「ミス・トンプソンと言います。ホワイトさんはいらっしゃいますか」

A : (3) “*Sure. Please hold on.*”

「はい。お待ちください」

[ex.5] (2) で B は A に “*May I speak to Mr White, please?*” と言っている。このような電話での会話で話したいと思っている人の名前を告げるときには、“May I speak to ～, please?” や “Can I speak to ～, please?” が使われることが多い。

[ex.5] で SJS は多くの人が勤める会社である。そのような会社に電話をかければ電話に出る可能性のある人は不特定多数になる。また、電話での会話では相手の姿が見えないため、誰が電話に出たのかすぐにはわからない。したがって、[ex.5] (2) のような状況では一般に相手への敬意を込めた礼儀正しい話し方をすることになる。

[ex.5] (2) で “*May I speak to Mr White, please?*” と言えば、二つの点で礼儀正しい話し方をしていることになる。一つは正式な “May I～?” を使っている点であり、もう一つはかたい響きのある “speak to ～” を使っている点である⁸⁾。一方、“*Can I speak to Mr White, please?*”

と言えば、親しみと敬意を込めた話し方をしていることになる。これはやわらかな“Can I ~?”とかたい響きのある“speak to ~”を組み合わせて使っているためである。

“May I ~?”と“Can I ~?”が使われるときの相手の相違を[ref.5]にまとめる。[ref.5]において「他人・知人」は相手が話し手と親しい関係にない他人や知人である場合、「友人・家族」は相手が話し手と親しい関係にある友人や家族である場合を示している。また、○はそれぞれの場合に使われること、△はそれぞれの場合に使われることが少ないことを示している。

[ref.5] “May I ~?” と “Can I ~?” が使われるときの相手の相違		
	他人・知人	友人・家族
“May I ~?”	○	△
“Can I ~?”	○	○

“Can I ~?”は話し手と親しい関係にない「他人・知人」に対して使われることもあれば、話し手と親しい関係にある「友人・家族」に対しても使われることもある。これは軽くてやわらかな“Can I ~?”を使えば、相手が誰でもあっても親しみのある言い方になるからである。

“May I ~?”は正式でかたい響きがある。そのため、主に話し手と親しい関係にない「他人・知人」に対して使われることが多く、話し手と親しい関係にある「友人・家族」に対して使われることは少ない。では、“May I ~?”が使われる相手である「親しい関係にない他人・知人」とは、具体的に言って話し手とどのような関係にある人なのだろうか。

[ex.2] (3) “*May I have a glass of water, please?*”や[ex.5] (2) “*May I speak to Mr White, please?*”では、“May I ~?”が名前のわかっていないウェイトレスや姿の見えていない電話の相手に対して使われている。また、これから見る[ex.8] (1) “*May I leave now?*”や[ex.10] (1) “*May I help you, madam?*”では、“May I ~?”が目上に当たる教師や見知らぬ他人である老婦人に対して使われている。このように、礼儀正しくかたい“May I ~?”は名前の分かっていない他人、誰であるのかわかっていない電話の相手、敬意を示さなくてはいけない目上の人など、ある程度の精神的な距離感がある人に対して使われるとすることができる。

また、[ex.1] (1) “Mr Smith, *may I ask a personal question?*”では“May I ~?”が“Mr Smith”というlast nameによる呼びかけとともに使われ、[ex.4] (1) “*Can I borrow this pen, George?*”では“Can I ~?”がGeorgeというfirst nameによる呼びかけとともに使われている。これは“May I ~?”にlast nameによる呼びかけに似た正式でかたい響きがあり、“Can I ~?”にfirst nameやnicknameによる呼びかけに似た気軽でやわらかな響きが

あるためである。このことから考えれば、last nameで呼びかけるほど礼儀正しい話し方をする必要のある相手に対しては“May I ~?”が使われ、first nameやnicknameで呼びかけるほど親しみを込めて話したいと思う相手に対しては“Can I ~?”が使われるということもできる。

4. 相手の行動について許可を与える “You can ~” と “You may ~” に関して

本来“You can ~”は“you (あなたは) can (できる)”という意味だが、“You may ~” (あなたは~してよい)と同じようにyouの行動についての許可を示すときに使われることがある。英語を母語とする者は両者をどのように使い分けているのだろうか。

[ref.6]に“You can ~”と“You may ~”のニュアンスの相違をまとめる。

[ref.6] “You may ~” と “You can ~” のニュアンス

① “You may ~”

“you (あなたは) may (してよい)”というニュアンス。話し手の権限によってyouの行動を許可するという主観的で恣意的な判断を示す表現。youの行動を許可する権限を持たない者が使えば、相手を見下すような尊大な話し方をしていることになる。

② “You can ~”

“you (あなたは) can (できる)”というニュアンス。youの行動についての許可を示すときに使われることがある。客観的で冷静な状況判断を示す表現。youの行動を許可する権限を持たない者が使っても、相手を見下すような尊大な話し方をしていない。

以下では“You may ~”と“You can ~”が用いられる会話例をみながら両者の相違を具体的に検証する。

[ex.6] 図書館の受け付けでの会話。Aは図書館の利用者、Bは図書館の職員。

A : (1) “Excuse me.”

「すみません」

B : (2) “Yes?”

「はい、何でしょうか」

A : (3) “How many books can I borrow from this library?”

「この図書館では本を何冊借りることができるのですか」

B : (4) “You can borrow up to six books.”

「6冊まで借りることができます」

[ex.6] (3)でAはBに“How many books can I borrow at this library?”と言って図書館で何冊本を借りることができるのか尋ねている。これに対して[ex.6] (4)でBは

“*You can borrow up to six books.*” と言って 6 冊まで借りられることを伝えている。

[ex.7] ある会社の玄関前での会話。A はその会社の警備員。B はその会社を訪れた人。A は車を運転してやって来た B に声をかけて、車を近くの駐車場にとめるように指示している。

A : (1) “Excuse me.”

「すみません」

B : (2) “Yes?”

「はい、何でしょうか」

A : (3) “*You can’t park here. There is a parking lot around that corner.*”

「ここは駐車禁止です。あの角のところに駐車場があります」

B : (4) “OK. Thanks.”

「わかりました。どうも」

[ex.7] (3) で A は B に “*You can’t park here.*” と言って、車を建物の玄関の前に駐車してはいけないことを伝えている。

[ex.6] (4) や [ex.7] (3) は「(誰でも) 図書館で本を借りることができる」や「ここには(誰も) 駐車できない」という一般の anyone (あらゆる人) に関する行動について述べている。したがって、[ex.6] (4) や [ex.7] (3) の “*You can ~*” は you で一般の anyone (人) を指して誰にでも適用される社会的な規則を示していることになる。

[ex.6] (4) や [ex.7] (3) では “*You may ~*” を使って “*You may borrow up to six books.*” や “*You may not park here.*” のように言うことは一般にない。これは “*You may ~*” が誰にでも適用される社会的な規則を示すのに適していないためである。もし [ex.6] (4) や [ex.7] (3) で “*You may ~*” を使えば、あらゆる人に適用される社会的な規則を話し手の権限によって許可するような尊大な話し方(専制君主が国民に対して許可を与えるような話し方)をしていることになる。

[ex.8] 小学校の職員室での会話。Mike は小学生、Miss Green は Mike の担任の教師。Miss Green が Mike を呼んで宿題を忘れないように注意したところ。

Mike : (1) “*May I leave now?*”

「もう行ってもいいですか」

Miss Green : (2) “Mike, never forget your homework again. Do you understand?”

「マイク、二度と宿題を忘れないのよ。わかった？」

Mike : (3) “Yes, ma’am.”

「はい、先生」

Miss Green : (4) “OK. *You may leave.*”

「じゃあ、行っていいわよ」

[ex.8] (1) で Mike は Miss Green に “*May I leave now?*” と言っている。これに対して Miss Green は二度と宿題を忘れないように注意してから、[ex.8] (4) で “OK. *You may leave.*” と言って Mike が立ち去ることを許している。

[ex.9] Ben の家での会話。Marcus と Ben は友人同士。窓を開けていいかどうか Marcus が Ben に尋ねているところ。

Marcus : (1) “Ben, can I open the window? It’s a little bit hot in here, isn’t it?”

「ベン、窓を開けてもいいかな。ここはちょっと暑いよね」

Ben : (2) “Yes, it’s all right but I don’t think it’s such a good idea, Marcus. Bugs will come in. *You can* turn on the air conditioner if you want.”

「いいけど、やめた方がいいと思うよ。虫が入るからね。よければ、クーラーをつけていいよ」

Marcus : (3) “All right.”

「わかったよ」

[ex.9] で Marcus と Ben は友人同士である。[ex.9] (2) で Ben は Marcus に “*You can turn on the air conditioner if you want.*” と言って、エア・コンディショナーを作動させることを提案している。

[ex.8] (4) や [ex.9] (2) は「(あなたは) 部屋から立ち去ってよい」や「(あなたは) エアコンをつけることができる」という相手の個人的な行動について述べている。したがって、[ex.8] (4) の “*You may ~*” や [ex.9] (2) の “*You can ~*” は you で Marcus や Mike という相手を指して、相手の個人的な行動についての許可を示していることになる⁹⁾。

[ex.8] (4) “*You may leave.*” のように “*You may ~*” で相手の個人的な行動を許可する場合には、話し手の権限を使って命令を下すような高圧的な話し方をしていることになる。このような話し方が許されるのは、一般に、学校での教師と生徒、軍隊での上官と部下など、話し手と相手に間に明確な上下関係がある場合に限られる。

[ex.8] (4) では “*You may ~*” の代わりに “*You can ~*” を使って “*You can leave.*” のように言うことも考えられる。この場合には、生徒への注意は終えたと教師が客観的な判断して、“You (君は) can leave (立ち去ることができる)” と生徒に言っていることになる。したがって、この場合には、教師と生徒という上下関係のある者同士の会話であっても、“*You may ~*” のような高圧的な話し方をしていることにはならない。

同じように [ex.9] (2) では “*You can ~*” で相手の個

人的な行動についての許可が示されている。この場合にもエア・コンディショナーが設置されているということから導かれる“You (君は) can turn on the air conditioner (エア・コンディショナーを作動させることができる)”という客観的な状況判断を冷静に伝えていることになる。

一方, [ex.9] (2) では“You can ~”の代わりに“You may ~”を使って“You may turn on the air conditioner if you want.”と言うことは一般にない。これは話し手と相手がMarcusとBenという対等な立場にいる友人同士であるためである。つまり, 対等な立場にいる友人に対して“You may ~”を使えば, 個人的な権限によって相手に許可を与えているような話し方, つまり, 相手を目下と見ているような尊大な話し方をしていることになってしまうためである。

ここまで論じてきた“You may ~”と“You can ~”におけるyouの示す対象の相違と表される内容の相違を[ref.7]にまとめる。[ref.7]において“you = anyone”[社会的な規則]はyouでanyoneを指して一般の誰にでも適用される社会的な規則を示す場合, “you = 相手”[個人的な行動]はyouで相手を指して相手の個人的な行動についての許可を示す場合を示している。また, ○はそれぞれの場合に一般に使われること, —はそれぞれの場合に一般に使われないこと, △は一般に限定的な状況でしか使われないことを示している。

[ref.7] “You may ~”と“You can ~”におけるyouの示す対象の相違と表される内容の相違		
	you = anyone [社会的な規則]	you = 相手 [個人的な行動]
“You can ~”	○	○
“You may ~”	—	△

“You can ~”は“you (あなたは) can (できる)”という客観的で冷静な状況判断を示す表現である。したがって, [ex.6] (4) や [ex.7] (3) のように誰にでも適用される社会的な規則を示すこともあれば, [ex.8] (2) や [ex.9] (4) のように相手の個人的な行動についての許可を示すこともある。

“You may ~”は“you (あなたは) may (してよい)”という主観的で恣意的な判断を示す表現である。したがって, [ex.6] (4) や [ex.7] (3) のような状況で誰にでも適用される社会的な規則を示すことは一般にない。また, “You may ~”は相手の個人的な行動についての許可を示すときに使われることはあるが, それは [ex.9] (4) の教師と生徒のように話し手と聞き手の間に明確な上下関係がある場合に限られ, [ex.8] (2) のような友人同士の会話で使われることは一般にない。

5. “May I help you?”と“What can I do for you?”などに関して

話し手が相手へ手助けを申し出るとき, “May I help you?”/“Can I help you?”/“What can I do for you?”/“How may I help you?”/“How can I help you?”と言うことがある。“May I help you?”や“Can I help you?”は「お手伝いしましょうか」, “What can I do for you?”は「あなたのために何かができますか」, “How may I help you?”や“How can I help you?”は「どうやってあなたをお手伝いしましょうか」などと訳されるが, 英語を母語とする者はこれらをどのように使い分けているのだろうか。

[ref.8]に“May I help you?”/“Can I help you?”/“What can I do for you?”/“How may I help you?”/“How can I help you?”のニュアンスをまとめる。

[ref.8] “May I help you?”/“Can I help you?”/“What can I do for you?”/“How may I help you?”/“How can I help you?”のニュアンス

① “May I help you?”

“I (私は) you (あなたを) help (手助けしても) may (してもいいですか)”というニュアンス。“May I ~?” (私は~してもいいですか)という質問であるため, 基本的に相手が手助けを必要としているかどうかかわかっていないときに使われる。

② “Can I help you?”

①の同意表現。ただし, 許可のcanを用いるため, ①より軽くやわらかい¹⁰⁾。

③ “What can I do for you?”

“I (私は) for you (あなたのために) what (何を) can do (することができますか)”というニュアンス。“What ~?” (何ですか)という質問であるため, 基本的に相手が手助けを必要としていることがわかっていて, その手助けの内容をwhat (何)で特定しようとするときに使われる。

④ “How may I help you?”

“I (私は) how (どうやって) you (あなたを) may help (手助けしたらよいのですか)”というニュアンス。③と同じように“How ~?” (どうやって)という質問であるため, 基本的に相手が手助けを必要としていることがわかっていて, その手助けの内容をhow (どうやって)で特定しようとするとき使われる。④は③よりも積極的で丁寧である一方, ③は④よりも率直で親しみがある。

⑤ “How can I help you?”

④の同意表現。ただし, 許可のcanを用いるため, ④より軽くやわらかい¹¹⁾。

以下では会話例を見ながら“May I help you?”/“Can I

help you?”/“What can I do for you?”/“How may I help you?”/“How can I help you?” が用いられる状況の相違を具体的に検証する。

[ex.10] 若者と老婦人の会話。通りすがりの若者が困った様子でいる老婦人に声をかけているところ。

若者 : (1) “May I help you, madam?”

「何かお手伝いしましょうか」

老婦人 : (2) “Oh, thank you. I’m looking for the Green Hotel. It should be around here. Do you happen to know where it is?”

「ああ、どうも。グリーンホテルをさがしているんです。この辺りにあるはずなんですけど。どこにあるかご存知ですか」

若者 : (3) “Sure. It’s just around that corner. Just follow me. I’ll show you there.”

「はい。ちょうどあの角を曲がったところです。ちょっと僕について来てください。そこまで案内しますよ」

[ex.10] (1) で若者は困った様子でいる老婦人に “May I help you, madam?” と声をかけている。これに対して老婦人は [ex.10] (2) で “Oh, thank you.” と言って若者の申し出を受け入れている。

[ex.10] (1) で若者と老婦人は見知らぬ他人同士である。老婦人は困った様子でいるが、老婦人が若者の手助けを必要としているかどうか若者はわかっていない。そこで若者は老婦人に “May I help you?” に声をかけて、老婦人が若者の手助けを必要としているかどうか確かめようとしている。このように、“May I help you?” や “Can I help you?” は基本的に相手が手助けを必要としているかどうかわかっていないときに使われる。

[ex.10] (1) のような状況では若者の方から老婦人に “What can I do for you?” や “How may I help you?” や “How can I help you?” と声をかけることは一般にない。これは [ex.10] (1) で若者が老婦人に “What can I do for you?” や “How may I help you?” や “How can I help you?” と言えば、相手が手助けを必要としているかどうかかわからないまま、いきなり「私はあなたのために何ができますか」や「どうやってあなたを手伝ったらいいでしょうか」や「どうやってあなたを手伝うことができるでしょうか」と尋ねていることになってしまうからである。

[ex.11] 若者と老婦人の会話。困った様子でいる老婦人が通りかかった若者に声をかけているところ。

老婦人 : (1) “Excuse me.”

「すみません」

若者 : (2) “Yes. What can I do for you?”

「はい。何でしょうか」

老婦人 : (3) “Do you happen to know where the

Green Hotel is? I think it should be around here.”

「グリーンホテルがどこにあるかご存知ですか。この辺りにあるはずだと思うのですが」

若者 : (4) “It’s just around that corner. Just follow me. I’ll show you there.”

「はい。ちょうどあの角のところですよ。ちょっと僕について来てください。そこまで案内しますよ」

[ex.11] (1) で老婦人は若者に “Excuse me.” と声をかけている。これに対して若者は [ex.11] (2) で “Yes. What can I do for you?” と応えている。

[ex.11] (1) では老婦人の方から若者に声をかけている。したがって、老婦人が若者からの何らかの手助けを必要としていることは明らかである。このように相手から声をかけてきた場合には、“What can I do for you?” “What can I do for you?” や “How may I help you?” や “How can I help you?” を使って応えることがある。

[ex.11] (2) の “What can I do for you?” は疑問詞 what から始まる直接的な質問である。したがって、相手の必要とする手助けが what (何) であるのか見極めようとする飾り気のない率直な響きがある一方、相手を思いやる優しさや親しみもある。

[ex.11] (2) では若者が老婦人に “How may I help you?” や “How can I help you?” と尋ねることも考えられる。この2つは “What can I do for you?” よりも丁寧で積極的な響きがある。これは “how (どうやって) 私はあなたを手助けすればいいですか” や “how (どうやって) 私はあなたを手助けできますか” という尋ね方に “I’ll do whatever you want” (あなたの望むことなら何でもします) という相手を思いやる気持ちが込められるためである。

[ex.11] (2) のような状況では老婦人に声をかけられた若者が “May I help you?” や “Can I help you?” と応えることは一般にない。これは [ex.11] (2) で若者が老婦人に “May I help you?” や “Can I help you?” と言えば、明らかに手助けを必要としている相手に「私はあなたをお手伝いしていいですか」や「私はあなたをお手伝いできますか」ともう一度手助けが必要であるかどうか尋ねていることになってしまうためである。

[ex.12] 百貨店の婦人服売り場での会話。店員が婦人服売り場にやって来た女性客に声をかけている。

店員 : (1) “Hello, madam. May I help you?”

「こんにちは、奥様。いらっしゃいませ」

客 : (2) “Yes, please. I’m looking for this type of shirt in size S.”

「はい、お願いします。このタイプの S サイズのシャツを探しているんです」

店員 : (3) “All right, let me see if we have one.”
「わかりました。あるかどうか探してみます」

[ex.12] (1) では店員が客に “Hello, madam. *May I help you?*” と声をかけている。これに対して客は “Yes, please. I’m looking for this type of shirt in size S.” と応えている。

[ex.12] のように百貨店で店員の方から客に声をかける場合には、一般に “What can I do for you?” / “How may I help you?” / “How can I help you?” よりも “May I help you?” / “Can I help you?” が使われることが多い。これは百貨店には何をを買うのか決めていない客もいれば、買うつもりもないまま商品を見てまわっている客もいるためである。つまり、店員の方から客に話しかける場合には、その客が店員からの手助けを必要としているかどうかかわからないためである。

[ex.13] 百貨店の婦人服売り場での会話。女性客が婦人服売り場にいる店員に声をかけている。

客 : (1) “Excuse me.”
「すみません」

店員 : (2) “Yes, madam, *what can I do for you?*”
「はい、奥様、ご用件は何でしょうか」

客 : (3) “Thank you. Could you tell me where I can find the menswear department, please?”
「ありがとうございます。紳士服売り場はどこにあるのか教えていただけませんか」

[ex.13] (1) では客が店員に “Excuse me.” と声をかけている。これに対して店員は [ex.13] (2) で “Yes, madam, *what can I do for you?*” と応えている。

[ex.13] のように百貨店で客の方から店員に声をかけた場合には、一般に “May I help you?” / “Can I help you?” よりも “What can I do for you?” / “How may I help you?” / “How can I help you?” が使われることが多い。これは客の方から店員に声をかけた場合には、その相手の客が何らかの手助けを店員に求めていることが明らかであるためである。

ここまで論じてきた “May I help you?” / “Can I help you?” / “What can I do for you?” / “How may I help you?” / “How can I help you?” の相違を [ref.9] にまとめる。[ref.9] において「わかっている」は相手が手助けを必要としていることがわかっている場合、「わかっていない」は相手が手助けを必要としているかどうかかわかっていない場合を示している。また、○はそれぞれの場合に使われること、△は基本的に使われないこと（例外的には使われること）を示している。

[ref.9] “May I help you?” / “Can I help you?” / “What can I do for you?” / “How may I help you?” / “How can I help you?” における、手助けの必要性に関する話し手の相違

	「わかっている」	「わかっていない」
① “May I help you?”	△	○
② “Can I help you?”	△	○
③ “What can I do for you?”	○	△
④ “How may I help you?”	○	△
⑤ “How can I help you?”	○	△

① “May I help you?” / ② “Can I help you?” は “May I ~?” (私は~してもいいですか) や “Can I ~?” (私は~できますか) によって相手が自分の手助けを必要としているかどうかを確かめる質問である。したがって、基本的に [ex.10] (1) や [ex.12] (1) のように相手が手助けを必要としているかどうかかわかっていない場合に使われる。

一方、③ “What can I do for you?” / ④ “How may I help you?” / ⑤ “How can I help you?” は “What ~?” (何ですか) や “How ~?” (どうやってですか) によって相手が必要としている手助けを特定しようとする質問である。そのため、基本的に [ex.11] (2) や [ex.13] (2) のように相手が手助けを必要としていることがわかっているときに使われる。

ただし、百貨店で客と店員の会話では上で述べた結論通りにならないこともある。例えば、客が手助けを必要としているかどうかかわかっていない場合でも、店員の方から客に “What can I do for you?” / “How may I help you?” / “How can I help you?” と声をかけることもある。また、客の方から店員に声をかけてきた場合でも、店員が “May I help you?” / “Can I help you?” と応えることがある。このように “May I help you?” / “Can I help you?” と “What can I do for you?” / “How may I help you?” / “How can I help you?” が混同して使われるのは、これらが客を愛想よく迎えるときの慣用的な挨拶表現になっていて、話し手がそれぞれのニュアンスの相違を意識しなくなっているからであると考えられる。

また、百貨店以外での会話でも、上で述べた結論に表面上合わないことが起きることもある。その例外的な会話例を以下に2つ挙げる。一つは、客が手助けを必要としているかどうか確かめないままいきなり店員の方から客に “What can I do for you?” と声をかける例である。もう一つは、手助けを必要としないと思われる相手に対して話し手の方からいきなり “What can I do for you?” と呼びかける例である。

[ex.14] Tim は雑貨店の店員、Sue は Tim の店の常連客。
Sue が Tim の店に入ってきたところ。
Tim : (1) “Hello, Sue. How are you doing?”

「やあ、スー。調子はどう」

Sue : (2) “Not bad, thanks, Tim.”

「悪くはないわよ、ありがとう、ティム」

Tim : (3) “What can I do for you today?”

「今日は何にする？」

Sue : (4) “I’d like six packs of beer and a dozen bottles of mineral water. I wonder if you could deliver them for me.”

「ビールを6パックと1ダースのミネラルウォーターがほしいの。届けてくれるかな」

Tim : (5) “Of course.”

「もちろん、いいとも」

[ex.14] で Tim は雑貨店の店員であり、Sue は Tim の店の常連客である。Tim は店に入って来た Sue と挨拶を交わしてからすぐに [ex.14] (3) で “What can I do for you today?” と尋ねている。

このように客が手助けを必要としているかどうかを確かめることなく店員の方からいきなり “What can I do for you?” と尋ねることがある。これが自然に聞こえるのは、相手が小さな店の常連客であるためである。つまり、小さな店に常連客が入って来れば、尋ねるまでもなくその店に何かを買いに来たことがわかるためである¹²⁾。

[ex.15] 警備員が不審な人物を見つけ、その不審な人物に声をかけているところ。

警備員 : (1) “Excuse me, what can I do for you?”

「すみません、何かご用ですか」

[ex.15] (1) のように警備員などが不審な人物を見つけたとき、その不審人物にいきなり “What can I do for you?” と声をかけることがある。このように手助けを必要としているかどうかかわからない相手（あるいは、手助けを必要としていないと思われる相手）に対して、突然 “I (私は) for you (あなたのために) what (何が) can do (できますか)” と声をかければ、その場にいる理由を一方的に尋ねていることになり、「用がないなら出て行け」という意味の皮肉を込めた警告になる¹³⁾。

注 釈

- 1) 4) 話し手の意図から考えれば、“May I have your autograph, please?” や [ex.2] (3) “May I have a glass of water, please?” は “Would you give me your autograph, please?” (サインしてくれませんか) “Would you give me a glass of water, please?” と同じ内容を表すが、前者は後者よりも控えめで丁寧。これは前者が I を主語として I (話し手) の行動の許可を相手に求める言い方である一方、後者が you を主語として you (相手) の行動を直接求める言い方であるため。
- 2) 5) 話し手の意図から考えれば、“May I pick you up at

the airport?” や “May I give you a hand with your luggage?” は “Shall I pick you up at the airport?” (空港まで迎えに行きませんか) や “Shall I give you a hand with your luggage?” (お荷物をお手伝いしましょうか) と同じ内容を表すが、前者は後者よりも控えめで丁寧。これは “Shall I ~?” (私が ~ しましょうか) で相手の意向を尋ねるよりも “May I ~?” (私が ~ してもいいですか) で話し手の行動について相手からの許可を求める方が控えめで遠慮深い言い方に聞こえるため。

- 3) 一般に、イギリス英語では “Mr Smith” のように Mr の後にピリオドを置かずに記述し、アメリカ英語では “Mr. Smith” のように Mr の後にピリオドを置いて記述する。本稿ではイギリス英語の記述に従っている。
- 6) “Might I ~?” や “Could I ~?” は “Can I ~?” と同じように “May I ~?” の同意表現になることがあるが、かたい響きがあるため一般の会話で “May I ~?” や “Can I ~?” はど多くは使われない。
- 7) 以前は can を may と同じ許可の意味で用いるのは誤りであるという指摘がなされたこともあったが、現代英語においては can を許可の意味で用いることが一般的になっている。例えば、『英語語法大辞典』(p.547) には「従来 can を、may に代わって、許可を示すのに用いるのは誤りであるという説も見られましたが、現代の口語では can が may に代わってよく用いられていますので、こういう説もだんだん見られなくなりました。may も can も許可を表すのに用いられると言わねばなりません」とある。
- 8) 電話以外の普段の会話では「人と話す」という意味で “speak to” よりも “talk to” が使われることが多い (“talk to” はイギリス英語で多く使われ、アメリカ英語では “talk with” が多く使われる)。これは “speak to” に普段の会話で使わないほどのかたい響きがあるためである。一方、電話での会話では [ex.5] (2) のように “talk to” よりも “speak to” が使われることが多い。これは相手の姿が見えない電話での会話では相手が誰であるのかわからないため、礼儀正しくかたい話し方をする必要があるからである。
- 9) 用いられる状況や話し手の意図によって、[ex.9] (2) “You can turn on the air conditioner if you want.” のような can は、[提案] や [指示] などと分類されることもある。例えば、『ジーニアス英和大辞典』は “We can [could] have a party.” “Yes, why not.” の can を [申し出・提案] と分類している。また、『ジーニアス英和大辞典』は “You can do exercise 10 for homework, everybody.” の can を [命令・指示] と分類している。
- 10) 11) “May I help you?” と “Can I help you?” の違い、及び、“How may I help you?” と “How can I help you?” の違いは、本稿の第 3 章で論じている “May I ~?” と “Can I ~?” の違いに等しい。
- 12) [ex.14] (3) のような状況では店員が客に “What can I do for you?” と声をかけることはあるが、“How

may I help you?” や “How can I help you?” と声をかけることは普通考えにくい。なぜなら、この2つには丁寧な響きがあり、Sue のような first name で呼びかけるほど親しい常連客に対して使うにはかたすぎるためである。

- 13) [ex.15] (1) のような状況では警備員などが不審な人物に “How may I help you?” や “How can I help you?” と呼びかけることもある。これらも “What can I do for you?” と同じように「用がないなら、出て行け」という意味の皮肉を込めた警告になる。この2つはかたい表現であるため “What can I do for you?” ほどこきつい響きはない。ただし丁寧な言い方であるため皮肉のニュアンスは “What can I do for you?” より強くなる。

参 考 文 献

- 荒木一雄・安井稔 監修『現代英文法辞典』(1992). 三省堂
 石橋幸太郎・広瀬泰三・伊藤健三・高梨健吉・鳥居次好・渡辺藤一 監修『英語語法大辞典』(1990). 大修館
 安藤貞夫・福村虎治郎・川上道生・小西友七・三浦新市・空西哲郎・渡辺登士 監修『続・英語語法大辞典』(1986). 大修館
 安藤貞夫・福村虎治郎・川上道生・小西友七・三浦新市・空西哲郎・渡辺登士 監修『英語語法大辞典第3集』(1989). 大修館
 大塚高信 監修『新英文法辞典』(1970). 三省堂
 大塚高信・岩崎民平・中島文雄 監修『英文法シリーズ』(1976). 研究社
 小西友七 監修『英語基本動詞辞典』(1980). 研究社出版
 木戸充・SANDERSON, S.J. (2009). 「口語英語研究 (1) : 人名及び人名相当語句に関して」『日本獣医生命科学大学研究報告』58, pp. 142-154
 木戸充・SANDERSON, S.J. (2010). 「口語英語研究 (2) : 人と会ったときの挨拶表現に関して」『日本獣医生命科学大学研究報告』59, pp. 113-124
 木戸充・SANDERSON, S.J. (2011). 「口語英語研究 (3) : 人名及び人名相当語句に関して」『日本獣医生命科学大学研究報告』60, pp. 105-114
 木戸充・SANDERSON, S.J. (2012). 「口語英語研究 (4) : ChristmasやNew Yearに関わる表現及びNice to meet youやNice meeting youなどの挨拶表現に関して」『日本獣医生命科学大学研究報告』61, pp. 71-86
 木戸充・SANDERSON, S.J. (2013). 「口語英語研究 (5) : 人と別れるときの挨拶表現句に関して」『日本獣医生命科学大学研究報告』62, pp. 106-119
 木戸充・SANDERSON, S.J. (2014). 「口語英語研究 (6) : 謝罪の表現に関して」『日本獣医生命科学大学研究報告』62, pp. 89-97
 木戸充・SANDERSON, S.J. (2015). 「口語英語研究 (7) : 欲求・期待・願望の表現に関して」『日本獣医生命科学大学研究報告』63, pp. 63-75
 木戸充・SANDERSON, S.J. (2016). 「口語英語研究 (8) : 命令や依頼の表現に関して」『日本獣医生命科学大学研究報告』64, pp. 89-97
 Collins Cobuild English Language Dictionary (1987), Collins Sons & Co Ltd
 Longman Dictionary of American English (1983), Pearson Education Limited
 HORNBY, A.S. *Oxford Advanced Learner's Dictionary* (2000), Oxford University Press

Study of Colloquial English (9) : Concerning Expressions Showing Permission

Mitsuru KIDO* and Stuart J. SANDERSON**

*Laboratory of the English Language Nippon Veterinary and Life Science University

**Sanderson English School

Abstract

This article is a study on colloquial English expressions which contain the meaning of permission: “May I ~?” / “Can I ~?”, “You may ~” / “You can ~”, “May I help you?” / “Can I help you?” / “What can I do for you?” / “How may I help you?” / “How can I help you?” and so on. As in Studies of Colloquial English (1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) and (8), this study, based on discussions between native speakers of English and Japanese, analyzes in what situations those colloquial expressions above are used and what differences there are between them.

Key words : may, can, help

Bull. Nippon Vet. Life Sci. Univ., 66, 21-31, 2017.